

JACET中国・四国支部 Newsletter

第33号

目次

1. 巻頭言	支部長 岩中 貴裕	pp.1-2
2. 2024年度 春季研究大会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	p.3
3. 2024年度 支部第1回役員会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	pp.3-4
4. 支部研究会 OPP イベントについて	OPP 代表 三熊 祥文	p.4
5. 2024年度 秋季研究大会発表応募要領		pp.4-5
6. 2024年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』第22号投稿募集		p.5
7. 事務局だより		pp.5-6
編集後記		p.6
【重要】ニューズレター（NL）配信についてお願い		p.7

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩中 貴裕

中国・四国支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。酷暑と闘いながら毎日を過ごされていることと思います。

皆さんは現在、生成型 AI や DeepL のような翻訳ソフトをどの程度、仕事に使われていますでしょうか。私は英語の論文や原稿を執筆する際は DeepL を使用して英文を作成し、それを Grammarly で校正する

というのが当たり前になっています。冠詞や前置詞の誤用を修正してくれるのでとても便利です。Chat GPT は教材の作成や業務の効率化のために活用しています。私は自分が担当する授業で TED や YouTube を使用することが多いです。いい素材が多いのですが、内容理解を確認するための問題を作成するのは時間がかかる作業です。し

かし、昨年から Chat GPT を使用して問題を作成するようになりました。今年の 4 月からは Copilot を使用しています。具体的な例をいくつか紹介します。以下の英文をご覧ください。

Thank You. I am honored to be with you today for your commencement from one of the finest universities in the world. Truth be told, I never graduated from college and this is the closest I've ever gotten to a college graduation. Today I want to tell you three stories from my life. That's it. No big deal. Just three stories.

Steve Jobs が 2005 年 6 月にスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの最初の部分です。この部分の内容理解を確認するための問いを 2 つ作成するように指示しました。すると Chat GPT は以下のような問いを作成してくれました。

- (1) What is Steve Jobs' emotional state or sentiment?
- (2) How does Steve Jobs feel about not graduating college?

両方とも英文を和訳して理解するだけでは答えることができない問いです。特に (2) は、学生に深く考えることを促す問いです。Chat GPT が作成した回答を紹介します。

- (3) He expresses gratitude and a sense of honor to be present at the commencement.
- (4) It seems he doesn't view it as a major shortcoming or a source of regret. He believes not following a conventional path can lead to success and fulfillment.

生成型 AI が (4) の回答を出した時、私は驚きました。質問 (2) のような問と (4) のような回答を作成できる英語の先生がどれくらいいるのでしょうか。これは授業を

担当される先生方の英語力のことを言っているわけではありません。英語の授業でよく使用される内容理解の問題は、英文が正確に理解できているかどうかを確認するレベルの問いが大半です。英語授業の質を高めるためにはそのようなレベルの問いでは不十分だと私は考えています。

Brown (1991) は授業内で見られる活動を、1) 操作的活動 (manipulative activity)、2) 情報处理的活動 (procedural activity)、3) 解釈的活動 (interpretive activity) の 3 つに分けています

音読練習や文の書き換え、ドリルなどは操作的活動に含まれます。私を含めて多くの英語教員が授業内で行っている True or False や Comprehension Questions は情報处理的活動に入ります。これらの活動を軽視することはできませんが、このような活動だけで満足してはいけないというのが私の持論です。

解釈的活動は、情報の正確なやり取りにとどまりません。理解した内容に基づいて自分なりの解釈を加える、そしてその解釈を学習者同士で共有する等の活動が含まれます。

解釈的な活動を取り入れた英語の授業が学習者の英語コミュニケーション能力にどのような影響を与えるのでしょうか。少なくとも私の授業では、学生同士のインタラクションが活発になりました。

多くの方が指摘されているように生成型 AI が誤った情報を提供することがあるのは事実です。だからと言ってその可能性を全否定してしまうのは愚かなことです。生成型 AI の可能性を理解した上で、英語の授業をより良いものにするために生成型 AI どのように活用するのかについて考えていくべきでしょう。

最後に今年度の秋季研究大会について説明させていただきます。2024 年度の秋季研究大会は 10 月 19 日 (土) に愛媛大学で開催予定です。通常の発表に加えて、講演も実施する予定です。皆さんに秋季研究大会でお会いできるのを楽しみにしています。

(山口県立大学)

2. 2024 年度春季研究大会報告

6月8日(土)に、2024年度第1回中国・四国支部春季研究大会が山口県立大学で開催されました。大会には約10名の参加がありました。

総会と開会式に続き、研究発表が4件行われました。1件目は河原田有香さん(神戸松蔭女子学院大学大学院生)による「話者指向副詞の使用と題材:小中高英語教科書の調査より」(The Discoursal Use of Speaker-Oriented Adverbs: A Survey of Elementary to High-school English Textbooks)、2件目は二五義博先生(山口学芸大学)と伊藤耕作先生(宇部工業高等専門学校)による「高専3年生に対する体育 CLIL のパイロットスタディー学生発案型授業を事例としてー」(Pilot Study of Physical Education CLIL for the Third-Year Students at National Institute of Technology: A Case Study of a Student-Driven Class in English)、3件目は Douglas Parkin 先生(Yamaguchi Gakugei University)に

よる“Pre-Service Teachers’ Perspectives on Learning and Teaching English as a Second Language (第二言語としての英語の学習と指導に関する現職教師の視点)、4件目は岩中貴裕先生(山口県立大学)による“Effects of Language Learning Beliefs on English Language Learning: How Are They Related to Learners’ English Proficiency?”(言語学習観が英語学習に及ぼす影響:英語力とどのように関係しているのか?)でした。今回は発表件数は多くはありませんでしたが、発表テーマは、教科書の題材分析、CLIL、教師志望者の学習・教育に関するピリーフ、語学力と有能感の関係など、幅広い分野から成り、どれも興味深い発表でした。

本研究大会で発表頂いたみなさま、参加して下さったみなさま、そして会場校の山口県立大学のみなさまにお礼を申し上げます。

寺嶋健史(松山大学)

3. 2024 年度 JACET 中国・四国支部

第1回役員会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2024年6月8日(土)に2024年度第1回支部役員会が開催され、2024年度の活動、2024年度中国・四国支部人事、2025年度の事業計画について審議を行いました。

2024年度(後期)および2025年度事業計画についてお知らせいたします。

1) 2024 年度秋季研究大会

日程: 2024年10月19日(土)

場所: 愛媛大学城北キャンパス

2) 2025 年度春季研究大会

日程: 2025年6月

場所: 就実大学

3) 2025 年度秋季研究大会

日程: 2025年10月

場所: 未定

4) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第22号)

発行: 2025年3月31日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2024年7月31日（第33号）
2025年1月20日（第34号）

4. 支部研究会 OPP イベントについて

OPP 代表 三熊 祥文

いつも OPP 研究会ご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。前号でお知らせしました通り、2023年度のOPPは諸般の事情により開催が見送られ、これ以降も実施しないことが事実上決定しておりました。2024年度のOPPも開催しないということでご理解いただければ幸いです。現在、研究会ではこれまでのOPPの成果を振り返り、それを一冊の出版物としてまとめる方向で動いております。この出版物には、過去の発表内容や成果、参加者の声などを含め、OPPがどのようにして英語

コミュニケーション能力の向上に寄与してきたか、また寄与する可能性があるかを詳述する予定です。出版を通じて、これまでの取り組みが広く共有され、より多くの方々にとって有益なものとなることを願っております。

引き続き、皆様の温かいご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。OPP研究会一同、今後も英語教育の発展に寄与すべく尽力して参りますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

(広島工業大学)

5. 2024年度 秋季研究大会発表募集要領

2024年10月19日（土）に2024年度秋季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部秋季研究大会

日時：2024年10月19日（土）

場所：愛媛大学城北キャンパス

A) 応募情報（英語での併記もお願い致します）

- (a) 発表題目 (Title)：日本語と英語
- (b) 種別 (Style)：自由研究発表、実践報告、事例研究など
- (c) 氏名 (Name)
- (d) 研究領域 (Research area)
- (e) 概要 (Abstract)：目的、背景、仮説、

方法、結論、引用文献など。日本語の場合は600字以内、英語の場合は250 words以内とする。

(f) 所属 (Affiliation)

(g) 使用機器 (Equipment needed)

(h) 連絡先 (Contact address)：メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2024年9月30日（木）

午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください。

研究発表及び参加申込みフォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S23969810/>

(7月30日～9月30日まで申込み可能)

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML、および支部 HP でお知らせします。(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 寺嶋 健史

tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

6. 2024年度『JACET中国・四国支部研究紀要』第22号

投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年1回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。なお、**本年度の第一回役員会(6月8日付)で、投稿規程が更新されています。投稿に際しては、支部HPより最新版の投稿規程をダウンロードの上、更新箇所をよく確認してから申込・投稿してください。**

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

■論文投稿申込締切り：9月末

■投稿原稿締め切り：10月末

■審査結果通知：12月末

■修正原稿締め切り：1月末

■刊行：3月末

※年次国際大会や支部大会で口頭発表されていない場合でも、紀要の投稿規程により、論文を投稿することはできます。

投稿先：支部HP フォームズから
仮題目提出

<https://ws.formzu.net/fgen/S42433433/>

投稿原稿

<https://ws.formzu.net/fgen/S47515527/>

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長
中山 晃(愛媛大学)

E-mail:

nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp

7. ～事務局だより～

2024年1月から7月までの新入会員4名をご紹介します。

★新入会員紹介★

武田千絵(広島文教大学)

Lutes, Peter(香川大学)

Broxholme, James(香川大学非常勤)

今井典子(高知大学)

(敬称略)

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

2024 年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事★

【支部役員】

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)
副支部長 平本哲嗣 (安田女子大学)
寺嶋健史 (松山大学)
支部幹事 (*は事務局幹事)
寺嶋健史* (松山大学)
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者

小崎順子 (川崎医療福祉大学)

支部研究企画委員 (21 名)

池野 修 (愛媛大学)
岩井千秋 (広島県立大学)
岩中貴裕 (山口県立大学)
ウィリー・イアン (香川大学)
上西幸治 (福山大学)
折本 素 (愛媛大学)
カワモト・ジュリア (愛媛大学)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
小山尚史 (岡山大学)
高垣俊之 (尾道市立大学)
ダンテ・ローレンス (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
中住幸治 (香川大学)
中山 晃 (愛媛大学)
二五義博 (山口学芸大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
松岡博信 (安田女子大学)
三熊祥文 (広島工業大学)

【編集後記】

蒸し暑い日が続きますが、毎年暑さが増しているように思えるのは私だけでしょうか。大好きなかき氷と冷やしラーメンを毎日でも食べたくなります。

10 月の秋季研究大会については愛媛大

森谷浩士 (岡山大学)
山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)

紀要編集委員

中山 晃 (委員長) (愛媛大学)
平本哲嗣 (副委員長) (安田女子大学)
岩井千秋 (元広島市立大学)
岩中貴裕 (山口県立大学)
上西幸治 (福山大学)
カワモト・ジュリア (愛媛大学)
寺嶋健史 (松山大学)
松岡博信 (安田女子大学)

【本部委員】

理事 岩中貴裕 (山口県立大学)
総務委員会 (支部事務局幹事)
寺嶋健史 (松山大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
国際大会組織委員会本部
山川健一 (安田女子大学)
『JACET 通信』委員会
森谷浩士 (岡山大学)
学術出版委員会紀要担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
学術出版委員会 Selected Papers 担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
セミナー事業委員会
中住幸治 (香川大学)
研究促進委員会
二五義博 (山口学芸大学)
学術交流委員会
ウィリー・イアン (香川大学)
大学英語教育学会賞運営委員会
池野 修 (愛媛大学)

学で実施予定です。昨年度も愛媛でしたが、長期間工事中だった道後温泉本館が今月リニューアルオープンしましたので、是非ご堪能下さい。みなさまとお会いできるのを楽しみにしています。

【重要】 JACET (大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet-chushikoku.com/>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ (<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。
3. ウェブの入力フォームに以下の【入力情報】を入力する。
【入力情報】

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
- 希望する
- 希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の寺嶋までお問い合わせください。

アドレス : tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国支部 Newsletter 第 33 号

2024 年 7 月 31 日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部 支部代表 岩中 貴裕

編集 : JACET 中国・四国支部 事務局幹事 寺嶋 健史

発行所 : 〒790-8578 愛媛県松山市文京町 4 番 2 号 松山大学 人文学部

連絡先 : E-mail: tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp